



鹿兒島縣
日高次郎
表神保町貳番地

3024



414
A 1066



謹啓

夫レ國歩ノ進路ヲ索ルハ富國ノ策ヨリ急
 ナルハ無シ富國ノ策ハ各ソノ國ノ状態ニ
 應ジテ經濟法ヲ施行スルヲ急務トス譬ハ
 バ本邦ノ如キ物産多キ國ニ於テハ其物産
 ヨリシテ富國ノ策ヲ施スベシ然ルニ本邦
 人民ノ風遠大ニ着目スルモ無キニ非ズト
 雖也或ハ眼前ノ利益ニ迷ヒ将来ヲ慮ラザ
 ルノ弊多シ是レ國ニ至貴ノ物産アルモ之
 ヲシテ充分ノ盛大ヲ極メシムルヲ能ハザ
 ル所以ナリ豈ニ遺憾ナラズヤ
 然レ此弊ノ起ルモノ元ト理ナキニ非ス
 又今日ニアラザレバ之ヲ指シテ弊風ト云

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

ベカラズ如何トナレバ本邦人民ノ交際通
商ハ内國ノ全部ニモ及ブテ無ク多クハ其
一部落ニ止マルノ風ヨリ由テ以テ来レル
餘流ナレバナリ然ルニ今ヤ開明ノ世トナ
リテ交際通商ハ壟ニ内國ノニ止マラズ
シテ遠ク海外ニ及ビ且ツ夫ノ通商ノ如キ
ハ一家ノ計ヲ為スノニ止マラズシテ一
國ノ大計ヲ為スモノナリ然リト雖凡舊習
ノ洗除シ難キハ嘆スベキモノニシテ偶舊
習ヲ弊風視シテ起ル者アルモ其道ニ入レ
バ亦流弊ニ沈溺シ其言行同一ナラザルモ
ノ江湖其類尠シトセズ實ニ此流俗ヲ一變
スルノ舉アルニ非レバ竊カニ恐ル本邦富

強ノ策得テ施シ難キニ至ラントテ
本邦富强ノ策ハ外國ノ財ヲ我ニ移入スル
ノ方法ヲ設ルト是レ經濟法中最凡緊要ノ
點タルベシ理論上ヨリ之ヲ云ハバ種々ノ
説モ起ルベシト雖凡到底我が固有ノ物産
ヲ起シ以テ之ヲ海外ニ輸出シ而シテ彼ノ
財ト交換スルニ勝レルノ良法ナキヲ信ス
ルナリ故ニ次郎等今般本邦ノ輸出物産中
第一ニ位スル生糸營業ヲ盛大ナラシムル
為ノニ一大高會ヲ設立セントス然ルニ只
目前ノ利益ニハミ着眼スル世態ナルガ故
ニ先ツ生糸地方ヲ巡迴シテ本業ノ人意ニ
適スルヤ否ヤヲ親查スルノ上ナラデハ議

論上ニ於テハ名ハ條理ニ適スルアルモ其實地ニ施シ難キモノタルヲ推量シ同盟者ヲ地方ニ要ノタリ其後諸方ヲ巡迴セシニ到ル處人意ニ適セサルハアラサリキ於是今般ノ舉ハ能ク天時人意ニ適シ必ス整頓スベキモノタルヲ信セリ

次郎此舉ノ起サハルベカラズト云ニ着目セシハ明治九年米國博覽會ノ時ニアリキ同十年春ドクトルヅレセル氏ト同居シ此志ヲ益切ニスルヲ得タリ

ツレセル氏ハ英國龍動府
サウスケンシントン博物館
博士ヲ以テ名アリ又諸起業上ニ頗ル實験アリ

同氏常ニ云ヘリ本邦ハ物産ニ富ムノ國ナリ然レモ其產出上ハ便法ノ設ケナキハ可嘆ト其他本邦ノ

富ヲ謀ルハ物産ヲ起シ市場ヲ設テ其賣買及ヒ注文等ノヲ便利ナラシムルヲ以テ急務トスルノ點ヲ舉テ談セサルハアラス次郎為メニ益感ズル所アリキ然レモ輕卒ニ之ヲ説明セシニ却テ妨碍ヲ醸出セシヲ恐レ默憲シテ機會ヲ待チ茲本年ニ至レリ

次郎ノ本旨ハ今一度外國ニ航シ海外諸商社ノ組成等ヲ調査シ而後之ヲ政府ニ建白スル乎將タ商家ニ説キ以テ之ヲ實地ニ施行セシメシ乎ハ點ニアリキ此時ニ當リ諸縣下ニ國會論者等將リニ起ラレトスルノ狀アリ就テハ苟モ愛國心アル者ハ宜シク

先ツ國ノ富强ヲ謀ルノ義務ヲ盡スベキ旨
ヲ説キ以テ同盟ヲ地方人ニ要メ更ニ其方
向ヲ物産繁殖ノ謀ル^ルニ歸セシムバ能ク
事ヲ實地ニ施シ以テ大成ヲ得ルニ庶幾カ
ラシ乎ト思想スル所アリ故ニ同盟者ヲ地
方ニ要ムル^トニ決意セリ
然ルニ昨年十二月^{次郎}ノ同縣人別府ナル
者来リ今般群馬縣下邑樂郡人ノ發起ニテ
蠶種ノ共進會ヲ東京府下ニ催サントス因
テ其得失上ニ付テ次郎ノ意見ヲ問ヘリ然
ルニ次郎平素ノ持論ニ於テハ蠶種ノ輸出
ヲ以テ甚夕是トセズ就テハ之ニ換ルニ生
糸ノ共進會ヲ催シ次テ其取引市場ヲ設立

シ生糸繁殖ノ基ヲ開クニ如カサルノ旨ヲ
以テ答ヘタリ爾来別府ノ紹介ヲ以テ該群
馬縣人等来リ生糸市場設立ノ^トヲ協議ス
ル數回而シテ次郎ニ憑リ其趣向ヲ撰立セ
シ^トヲ要望セリ然ルニ蠶売町米會所ノ風
ニ倣ヒ定期賣買ヲ主トスルノ方法ヲ望ム
者多ク而シテ實地ノ業ヲ望ム者ハ稀ニア
リキ是今般ノ舉ニ於ケル發端ナリ
當時^{次郎}熟慮スルニ平素ノ志情ヲ主張セ
シニハ同盟人ヲ募集スル甚夕難シ故ニ本
店ニ於ケル取引上ノ^トハ之ヲ株式取引所
ノ例ニ倣ヒ之ニ加ルニ支店ヲ便利ノ地方
ニ置キ資本ヲ貸シ以テ製糸ノ増殖ヲ謀ル

ノ方法ヲ設ケタリ於是人氣能ク合同スル
ヲ得タリ
願書及ビ規則ヲ政府ニ奉呈セシハ本年二
月十二日ナリ此時ニ於ケル同盟人ハ群馬
縣下邑樂郡人拾名枋木縣下足利郡人二名
外ニ右總代三名ニアリキ四月ニ至リ神奈
川縣下南多摩郡ヨリ數名ノ同盟ヲ得又枋
木縣下足利郡同盟相加ハリ漸次ニ發起同
盟ノ精神ヲ剛カラシムルニ至レリ
此際株式取引所及ビ堯町蠟売町兩米商會
所營業停止ノコトアリ又聞ク我規則中定期
賣買ノ目アリ是レ或ハ該停止ノ商社ト類
ヲ同ウスルモノ無キニ非ス就テハ右願書

ハ一往其下附ヲ請ヒ其規則ヲ改正シテ再
ビ出願スルニ如カズト故ニ協議ノ後更ニ
請テ其下附ヲ得タリ
於是規則ヲ改正シ現物賣買注文約定資本
金貸付及ビ荷為換等ヲ以テ營業スルノ趣
旨ヲ以テ更ニ出願セリ此時ニ當テハ願書
ニ連署セシ者三十餘名ニ及リ然ルニ東
京府廳ハ我總代ヲ召シ本商會ノ如キハ布
達第二拾一號ニ準シ別ニ出願ニ及バズ之
ヲ區長ニ届ケ置キ更ニ開業スベキ旨ノ口
達アリタリ夫ヨリ家屋ヲ日本橋區本石町
二丁目一番地ニ購ヒ之ヲ創業事務取扱所
ト定メタリ

前ニモ陳セシ如ク遠大ノ利益ニ着目セサルハ現今ノ風ナルガ故ニ定期賣買ヲ主トセサルハ頗ル衆望ト違ハ是次郎等ハ深く辛苦セシ所ナリ於是尚能ク地方人ノ望如何ヲ親查スル為メ且ツ改正規則中資本金ヲ貸ス等ノ點ニ於テハ本商會ノ株主ヲ以テ保證人タラシムルノ方法ナルカ故ニ株主ヲ地方ニ募ルハ最モ緊要タリ因テ八月十五日東京ヲ發シ神奈川縣下西多摩郡ヲ始メトシテ上州地方ヲ經歷シ而シテ野州足利地方ヲ巡迴セリ

生糸ノ最モ盛大ナル前橋ニ於テハ郡長山形某今般ノ舉ヲ賛成シ同地ニテ有名ノ巨

商勝山宗三郎下村善太郎及ヒ竹内勝五郎等ヲ招集シテ會議ヲ催セシニ皆云此舉起サブルベカラズト然ルニ本地ハ横濱商家ト殊別ノ情義アリ就テハ同地高原善三郎茂木總兵衛等ニ同盟ヲ謀ラレシトヲ要スト且ツ云原等ニ於テハ我高權ノ振ハサルヲ憂ル者ナレバ必ズ歡テ同盟スベシ然ル片ハ前橋丈ケニテ千株乃至千五百株拾万四千乃至拾五万四千ハ之ヲ募集スルヲ得ベシト其後該巨商等ハ次郎ヲ生糸改所ノ樓上ニ招キ優遇ヲ盡セリ其時ニ於テモ該巨商等ハ横濱ノ巨高等ヲシテ同盟セシメ而シテ大成ヲ要スルノ旨ヲ談セリ

山形某云星野長太郎ナル者生糸商社ノ本店ヲ横濱ニ置キ其支店ヲ各地ニ設ルノ企アリ然ルニ勝山ニハ其同盟ナリ關ク果シテ然ラバ今般ノ舉ニ合併スル如何ト問フ勝山曰然リ高レモ未夕同社ノ協議ニ與リシト無シ只名ヲ連ルノニ合併説極テ可ナリト且ツ云星野ハ福島高佐野利ハナル者ニ同盟ヲ要セリト雖モ此企ハ一個ノ賣込問屋ヲ横濱ニ増立スルニ等シ如此ノ社ニハ加入スル能ハズト云テ之ヲ拒絶セリ然ルニ今般ノ舉ハ是必佐野ノ意ニモ適スルナラント於是次郎ハ同種ノ營業ヲ二途ニ分クシヨリ寧ロ其合併ヲ謀ルニ如カザ

ル旨ヲ議セリ而シテ星野ニ面晤ヲ要セリト雖モ偶出府中ニシテ其事ヲ果サザリキ星野ト同盟ナル前橋精絲原社ノ員等トモ會議セシニ皆合併ヲ為シ以テ大成ヲ謀ルニ如カザルノ説ナリ又山形某ハ同地ノ士族ニシテ頗ル名望アル者ナリ然ルニ今般ノ舉ハ舊藩士等營業ノ為メニモ必要ナル發起ナレバ横濱ニテ同盟セシ上ハ官ヲ辭シ更ニ身ヲ此舉ニ委ヌベシト云ベリ將夕伊香保在番中舊高崎藩士宮部某ニ邂逅ス彼亦名望家ナリ而シテ我物産ヲ克分ニ起ラサルヲ憂ル者故ニ同盟協力ヲ期シテ約セリ

桐生ニ於テハ山田郡、長松井某等ノ周旋
ニ由リ巨商森宗作小林次平等ニ面晤ス然
ルニ孰レモ賛成説ナラサルハ無_レ文足利
ニ於テハ銀行支店支配人小泉兵太郎等ト
協議ス是亦同意ノ説ニアリキ然レ_レ此地
ハ本店開業ノ上ナラテハ株主タラシ_クヲ
決心スル者鮮シ是レ習俗ナリ故ニ嘗テ枋
木ニ銀行ヲ設置スル時ニ於テモ開業以前
ノ株主募集ハ甚タ困難ナリシト云
歸京ノ後横濱ニ赴キ原善三郎茂木總兵衛
及ビ西村喜三郎等ト面議スル數回孰レモ
株主トナラシ_クヲ約ス於是生糸營業ノ地
方ニ於テ次郎ノ巡行セザルハ福島及ビ八

王子ノ_レ然ルニハ王子地方ヨリハ既ニ同
盟者多シ獨福島地方ハ同盟人二名アルノ
ニ而シテ未タ豪農巨商等ノ同盟ヲ得ザル
ヲ憂ヘシニ圖ラザリキ去月下旬福島人米
山某來訪スルニ會シ同地方ニ於テ有名家
ノ同盟ヲ得ル_トニ付テ其便路ヲ得タリ
米山某ハ福島ノ士族ニシテ同地ニ在ル豪
商等ト能ク相識リ且ツ商業ノ志ヲ以テ久
シク當府下ニ在ル者ナリ然ルニ本年夏福
島ニ歸リ諸豪商等ト大イニ企圖スル所アリ
因テ再_レ出府セリト云而シテ今般我ニ
同盟ス且ツ云福島ノ巨豪等舉テ同盟スル
_ト疑ヲ容レズト於是次郎ハ米山ヲ伴ヒ本

月中福島ニ赴キ該巨豪等ヲ同伴シテ出府
シ直チニ開業ヲ謀ラシムルヲ決定セリ
當府下ニ於テモ頃日或ル商家ト協議セリ
然ルニ到ル處今般ノ舉ヲ賛成セザルハ無
シト雖モ又遠夫ニ注目スルヲ迂濶視スル
者モ無キニアラザルナリ於是按ズルニ我
高權ノ衰頽ヲ挽回スルニハ大奮發ヲ以テ
殊別ニ一種ノ大商會ヲ起サザルベカラズ
而シテ輸出物産繁殖ノ便益ヲ謀リ開港場
ニ居留スル洋人等ノ得テ妨ゲ難キ方策ヲ
設ルト是レ急務ナリ然則國益人利ノ盛大
ヲ致スハ論ヲ待タザルベシ
今般創業ノ際ニ當リ資本金ヲ三十拾万圓ト

定ムルハ荷為換等ノ業ニ於テ固ヨリ不足
タリ故ニ漸次ニ之ヲ増加スベキモノトス
然ルニ今般福島人等大舉シテ同盟スルニ
至ラレニハ横濱高等ノ奮發モ一層増加セ
シ然ルモ前橋ニ於テモ千株以上ヲ出ス
ベキノ言アリ之ニ加ルニ府下ノ巨豪等同
盟スルニ至レバ五拾万圓以上ノ資本ヲ以
テ開業スルノ幸福ヲ得ルヤモ知ルベカラ
ズト次郎偏ニ其増額ヲ要望スルナリ
熟按スルニ奸ハ進ニ易ク正ハ進ニ難シ蓋
奸ハ名ヲ正ニ假リ以テ利ヲ理外ニ貪ルモ
正ハ名ヲ奸ニ假ラズ又利ヲ理外ニ貪ラ
サルノ別アレバナリ然レモ生糸ノ如キ現

在至貴ノ物産ハ其營業ノ便利ヲ謀ル商會
ニ於テ資本ノ多キニ至レバ其保助ノ能ク
實地ニ及ブ所ヨリシテ奸ノ之ヲ妨ルアル
モ得テ及ビ難キニ至ラシキハ必セリ然ルニ
資本ノ多キニ至ルノ點ヲ整理スルノ最
難事タリ於是國人中ニ一大奮發アレバ大
イニ此業ヲ起シ以テ本邦富強ノ基ヲ開ク
ニ足ルベキモノアリ華族舊諸是レナリ該
華族中ニ於テ此大奮發アルアレバ其資力
ヲ以テ國ノ為ニ物産ヲ起シ之ヲ海外ニ
輸出シテ彼ノ財ニ換ヘ以テ本邦ノ財數ヲ
増加スルヲ得シ又其資本ヲ出ダセル人
ニ於テハ其株ニ付テ收受スル配當ノ額他

ノ銀行預ケ金等々下ニアラサルベシ然則
外ニハ國益ヲ謀ルノ義舉ヲ助ケ内ニハ自
家ノ理財ヲ誤ラズ實ニ是レ至誠愛國家ノ
當サニカムベキ所タルヲ敢テ自テ信ズル
ナリ
抑モ今般ノ發起ニ於ケル商會ノ利益ハ生
糸荷為換及ヒ賣買並ニ注文等ニ於ケル手
數料資本金貸付ノ利子等ナリ規則ニ照テ
シテ之ヲ配當スベキモノナレハ株主ノ利
益必ズ充分ナルベシ然而シテ國益ノ第一
トモナルベキ義舉ナレバ願クハ華族中ヨ
リ株主アリテ百万圓以上ノ資本トモナル
ニ至ラシキハ我生糸商業ノ能ク整頓スル

ヲ得テ縦令奸ノ之ヲ妨ルアルモ得テ及ヒ
難キニ至ルハ論ヲ俟タズ且ツ検査役ノ點
檢能ク誠實ナルニ至ラバ生糸ヲ購ハント
欲スル内外國人ノ見ル所ニ於テモ東京生
糸商會ノ檢印アル生糸ハ疑ヲ容レズト云
ノ信ヲ得ルト遠キニ非ザルべル然ル片ハ
製糸ハ益不正ノ弊ヲ除キ信ヲ外ニ表シ買
人ハ愈疑心ヲ解キ注文等ノ數ヲ増シ國益
及ビ人利ヲ盛大ニシテ必ス本邦財政ノ助
ケトモナルニ至ラントテ信ニテ疑ハザル
ナリ
本邦ノ生糸ヲ以テ世界中第一等タルノ位
置ヲ占ルト能ハサルハ商業ノ確實ナラザレト獨資資本ノ足ラザル

ニ由ルノ商業確實ナレバ必能ク信ヲ海外ニ表シ資本足レバ必能ク其繁殖ヲ極

ムベシ故ニ一大商會アリテ其資本ヲ貸シ
又検査役ヲ置テ其品格ヲ精査シ荷為換ヲ
以テ營業者ノ便利ヲ謀ラニハ其能ク繁
殖ヲ極メザルノ理ナシ又品位モ自然ニ改
良スベシ而シテ海外人等ヲシテ生糸ノ一
ヲ説ケバ必ズ本邦ヲ以テ第一等ニ置クシ
ムルニ至ラントテ期望ス然則蠶種輸出ハ
如トキ公益ニ害アルモノハ漸次ニ相止ム
ニ至ラン
何ヲカ蠶種輸出ノ我公益ニ害アリト云曰
ク蠶種ハ本邦至貴ノ産源ナリ然ルニ本邦
ノ人民ハ之ニ應シテ製糸ヲ盛大ナラシム

ル一能ハズ却テ其産源ヲ以テ外國人ノ産
源ニ付ス豈ニ我公益ニ害アリト云ハサル
ヲ得ニヤ抑モ我人民空手無産ノ者ナキニ
至テ而後我産源ノ餘分ヲ彼ニ讓ルモノト
セバ可ナリ然ルニ生糸地方ニ於テハ現在
資本ノ乏シキニ苦シミ業ヲ怠ル者多シ嘆
息ノ至ト云ベシ

現今世界中ニ於テ生糸産出ノ多キハ伊太
利ヲ以テ第一トス而シテ我蠶種ノ輸出ハ
伊太利ノ産源ヲ助ルモノナリ昨年中我蠶
種ノ輸出高ハ九拾万枚ナリト云此蠶種ヲ
以テ産出スル繭ハ一枚ニ付七斗ノ割ニ
シテ六拾三万石ナリ其繭ヲ以テ産出スル

生糸ハ熨斗糸生皮苧ヲ合シ四百餘万斤ナ
リト豈ニ大ナラズヤ豈ニ思ハサルベケン
ヤ蠶種輸出ノ業タル全ク國益トナラザル
モノト云ベカラズ如何トナレバ我物産ヲ
以テ外國ノ財ニ換ルノ効能アレハナリ然
レモ國産ノ成熟ヲ待タズレテ之ヲ外國人
ニ鬻キ其結果ヲ以テ彼ノ所領ニ付スルハ
只該蠶種輸出ニ與ル者ノミニ止ルノ小利
ニシテ生糸營業者一般ノ大利ヲ妨ルモノ
ト云ハサルベカラザルナリ故ニ幸ニシテ
本邦ニ如此至貴ノ産源ナレバ國人ヲシテ
能ク其結果ヲ得セシメ以テ大益ヲ謀ルヲ
急務トス

外國直輸出ハ次郎カ固ヨリ企望スル所ナ
リ然レモ此業タル無慮ニ之ヲ施行セシニ
ハ名ハ能ク方今ノ人情ニ適スルカ如シト
雖モ其實ハ動モスレバ効ノ尠キモノタラ
シトテ恐ル故ニ先ツ内ニハ大イニ物産ヲ
起シ外ニハ能ク信ヲ表スルノ方策ヲ施行
スルト最モ急務タルヲ信ス然則聲價ノ宜
シキヲ得ルノミナラス自然ニ輸出ノ増加
ヲ致スニ至ラシ是偏ニ次郎等ノ目的トス
ル所ナリ

夫レ外國直輸出ノ點ニ付テ次郎ノ企圖ス
ル所ハ社員中ニテ生糸營業ニ練熟ナル者
ヲ撰ミ本商會ノ名義ヲ以テ海外ニ於テ生

糸ヲ要スル地方ニ派遣シ製糸場及ヒ織物
場ニ於ケル實地ヲ親查セシメ又其業ニ關
スル外國人等トモ交際ヲ結ビ而シテ之ヲ
施行セシニハ外國ニ於ケル適要ノ實況ヲ
モ明辨スルヲ得又内外ノ約束上ニ於テモ
能ク其全キヲ保スルヲ得シ如此ニシテ
貿易ニ遺策ナキヲ謀ラシ是レ從來ノ素
志ナリ

次郎去春以來千思萬慮漸ク趣旨ヲ生糸地
方ニ通スルヲ得タリ然ルニ府下ニ於テ
尚資力家及ヒ老練商家ノ加入同盟ヲ得テ
大イニ事ヲ創ルノ機今日ニアリ然而シテ
閣下次郎ヲ憐ミ補助ヲ賜フ次郎何ノ幸福

カ之ニ如カン伏シテ願クハ 閣下益恩顧
ヲ垂レ創業ノ期ヲ速カナラシメ玉ハシ

東京生糸商會發起人

明治十三年十一月 日高次郎百拜

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 閣下, 願, 垂, 業, 期, 速, 玉, 拜, 日, 高, 次, 郎, 東, 京, 生, 糸, 商, 會, 發, 起, 人, 明, 治, 十, 三, 年, 十, 一, 月）

